

京都大学経済学研究科附属プロジェクトセンター主催

第5回
先端ファイナンスビジネス研究会

大災害債券（CATボンド）と東日本大震災
—新しい金融技術による保険市場と資本市場の融合—



講師：勝山正昭氏 ガイカーベンター㈱
日時：6月1日（金）16:00-17:30
場所：総合研究2号館・大講義室
お問合せ：経済学研究科 加藤/遠藤
Mail: kato@econ.kyoto-u.ac.jp
Tel: 075-753-3429(加藤)/3531(遠藤)

東日本大震災、ニュージーランド地震、タイ洪水など、昨年は自然大災害が頻発して、保険市場が不安定になって来ている。一方年金基金等の資本市場の投資家は保険リスクへの投資意欲を強めて来ており、最近の欧州危機でその勢いはむしろ加速しつつある。

その両市場間のリスク移転をつなぐツールが大災害債券（CATボンド）等の新しい金融技術で、たとえば東日本大震災で被災者に支払われた保険金の原資の一部は海外の投資家マネーである。本講義では、これら保険市場と資本市場の融合が進みつつある状況を実例と共に解説する。

＜先端ファイナンスビジネス研究会の趣旨＞

ITや金融技術の進展は金融ビジネスを大きく変貌させている。それは、リーマンショック以降も同様である。ファイナンスビジネスは伝統的な業態（銀行、保険、証券など）を中心とした構造から、新たな付加価値をもたらす新しいプレーヤーが大きな影響力を持つようになって来ている。ヘッジファンドや格付け機関はその象徴であろう。広く金融市場、企業ファイナンスを理解するうえで、これら新しいプレーヤーの役割を理解することは必須となっている。

「先端ファイナンスビジネス研究会」では、これらの新しいプレーヤーを理解することを目的とし、各分野の実務担当者を招き講演、自由討議を行うものである。頻度は月に一回程度とする。

京都大学経済学研究科教授 加藤康之